

教えて！先生 日本人形の衣裳に迫る

「先生」

〔復習〕
商戦特別編
女雛の衣裳

松井幸生さん
株式会社善助商店社長
Matsui Yukio

金襴織物・裂地の製造卸商を営む。菅田屋勤兵衛から数えて13代目。京人形商工業協同組合副理事長。平成12年伝統的工芸品産業審議会臨時委員任命。翌年、伝統的工芸品産業の奨励賞を受賞した。

今日の先生



日本人形の衣裳にとことん迫る本企画。人形の衣裳に使われている文様や生地はもちろん、着せ方についても詳しく解説していきます。業界のスペシャリストを講師に迎え、衣裳の基礎から応用まで教えていただきます。知識の習得や再確認、セールストークにお役立てください！
第11回は、真つ只中の三月物商戦に役立つような情報を提供します。



※説明のため櫛扇ひおうぎを外した状態で撮影

- ①大垂髪（おすべらかし）
天皇陛下の即位式で皇后陛下などの皇族がする髪型。衣裳着の雛人形も同じ髪型。後ろの髪はつけ毛で4カ所髪が結ばれる。
- ②唐衣（からぎぬ）
一番上に着るもの。勅許ちよつぎよ（天皇の許し）がなければ綾織や赤色と青色、紫色などの唐衣は着用を禁止された。赤色は深い紅を指し、青色は現代でいうブルーではなく黄緑色に当たる。天皇の御服の色だったことから禁色となった。とりわけ特別な意味を持つのが白色。平成の即位礼正殿の儀で上皇后が着用された唐衣は、表地は小葵を浮地紋に紫色の向鶴の丸を上紋とした格調高い二陪織物で、紫色の小菱紋の固地綾を裏とする菊
- ③表着（うわぎ）
表着は下の衣よりも華麗な織物で色目や文様など階級により異なる。上皇后の御表着の表地は重襷かたまたまきの文様を浮織物とした二陪織物。裏地は萌黄色の平絹。文様は上皇后の御印である白樺に由来する。令和の即位礼正殿の儀で皇后雅子様がお召しになった表着は三重菱地にハマナスの文様。
- ④打衣（うちぎぬ）
五衣の上に着る打衣。織物に柔らかさに加えて光沢を持たせた。のちに板引の技法が用いられて堅いものになった。板引とは生地（ひだり）に光沢と張りを持たせる技法で、糊を含ませ

姫の衣裳を
より深く理解
できます！

女房装束
いつつぎぬからぎぬも
五衣唐衣裳
【構成】

十二単の各衣に関する解説を①～⑨の通りに記載しました。連載の第3回～第6回の内容を抜粋したものです。詳しく知りたい方はバックナンバーをご覧ください。
※本連載のバックナンバーは協会WEBサイト（下記URL）で見ることができます



撮影協力／株式会社吉徳

◆オススメ記事 by にんぎょう日本編集室
https://www.ningyo-kyokai.or.jp/osusume_kiji/

た織物をくるみの油で拭いて磨き蜜蠟を塗った漆塗りの板に張り付けて乾燥させてからはがす。

⑤五衣 (いつつぎぬ)

五衣は単と表着の間に着る桂うづまきを5枚重ねた総称。もともとは寒さや暑さを調整するためのもの。襟や袖口・裾口に表れる複数の色の重なり「重ねの色」を大切にしたり。平安中期には重ねる枚数に決まりはなく身分や季節、儀式によりさまざまだった。その後、奢侈禁止令（儉約を推奨する）が何度も出て、次第に5枚が基本となり五衣と呼ばれるようになった。

⑥単 (ひとえ)

当初、単は絹で作られた肌着だった。消耗品という位置づけ。平安後期、白無地の小袖が肌着として一般的になると単は桂の下に着用されるものになった。単は桂よりも一回り大きい作りになっている。桂が直接肌に触れるのを防ぐため。単は袖先や裾先が桂よりも長く仕立てられているので、汗などで桂が汚れることはない。

⑦長袴 (ながばかま)

長袴の色の基本は紅だった。他に晴れの儀で濃色などが着用された。濃色は有職の色。平安時代の打袴の色は若年は濃色。令和元年「即位礼正殿の儀」に臨まれた秋篠宮ご夫妻の長女眞子様と次女佳子様がお召しになった袴の色だ。

⑧大腰 (おおごし)

後ろの腰当部分。裳の付属品で大腰の他に小腰、引腰がある。平安室町時代の裳には小腰がないタイプもあり、その場合は引腰で腰に結んでいた（上記画像にて、小腰と引腰は★印で表記）。

⑨裳 (も)

飛鳥時代以降、引きずるくらい丈が長い袴ひらひらと呼ばれるものを着用していた。歩きやすくなるために前の部分を短く仕立て、後ろ部分だけを長く引きずるような現在の裳の形になったと言われている。江戸時代になると裳はさらに短くなる。懸帯かけおびが付き、肩に掛けて裳を背負う形になった。現在は腰で結ぶ形になっている。

参考文献

- ・ 仙石宗久著『十二単のはなし―現代の皇室の装い』（朝オクタブ、1995年）
- ・ 八條忠基著『有職装束大全』（朝平凡社、2018年）
- ・ 八條忠基著『素晴らしい装束の世界』（朝誠文堂新光社、2005年）
- ・ 鈴木敬三編『有職故実大辞典』（朝吉川弘文館、1996年）